

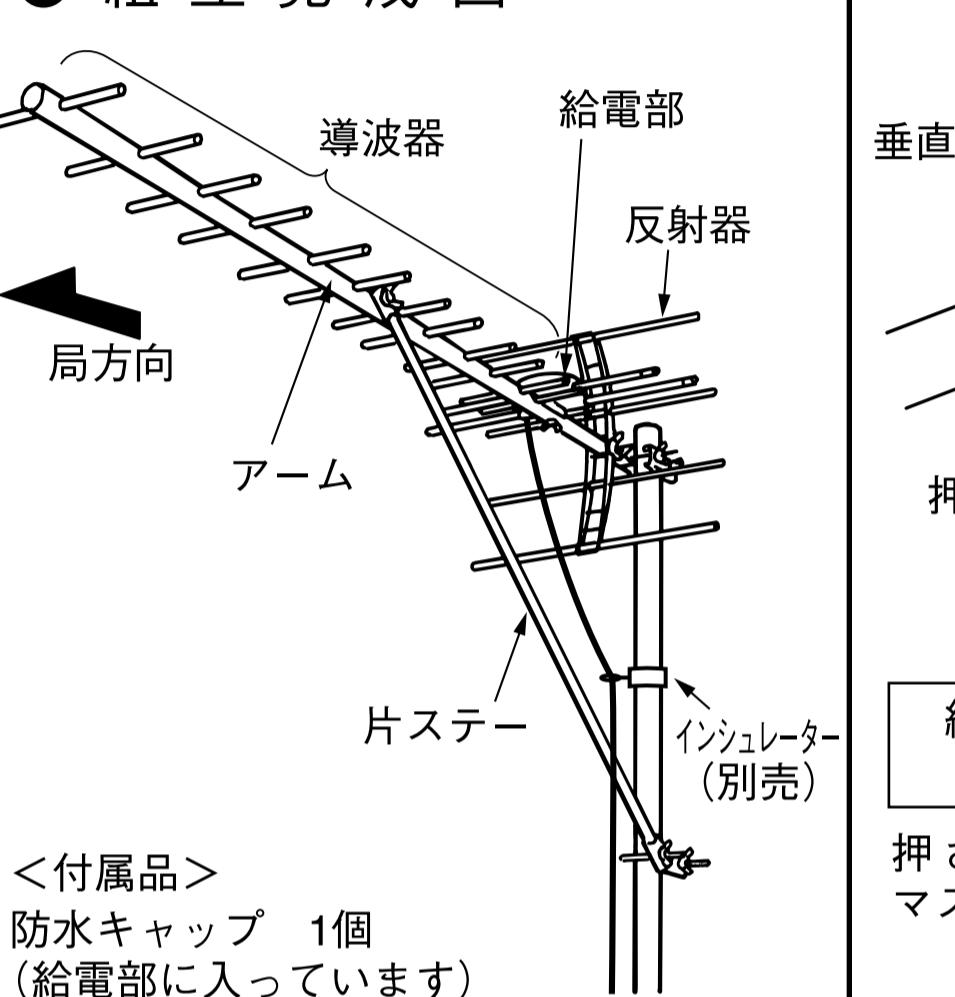
# アンテナの組立方法

品番 UAK14P3

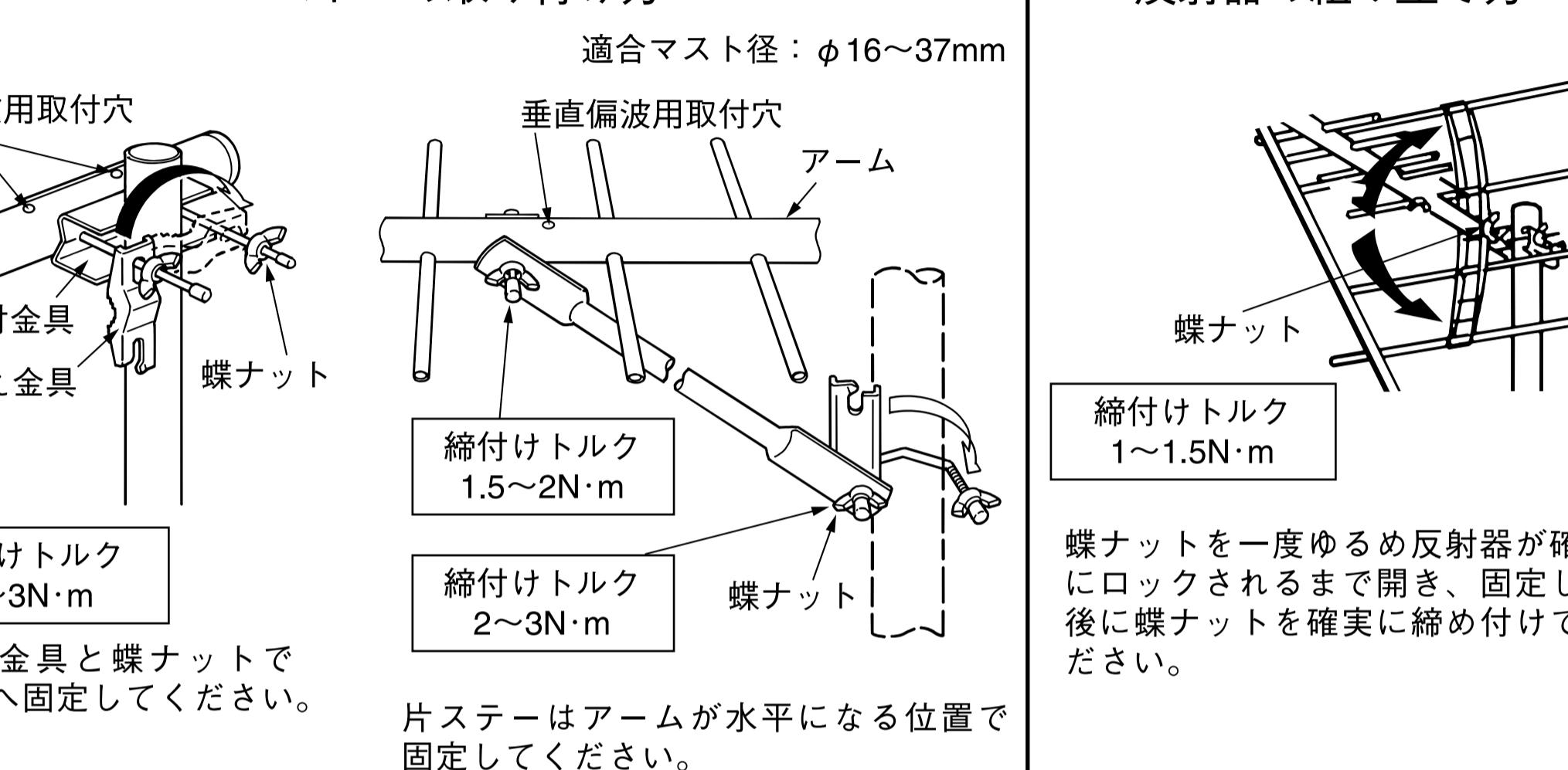
品名 UHF14素子アンテナ(ch.13~52)  
同軸ケーブル[75Ω]専用、片ステー付

このアンテナを正しくご使用いただくために、説明をよくお読みください。

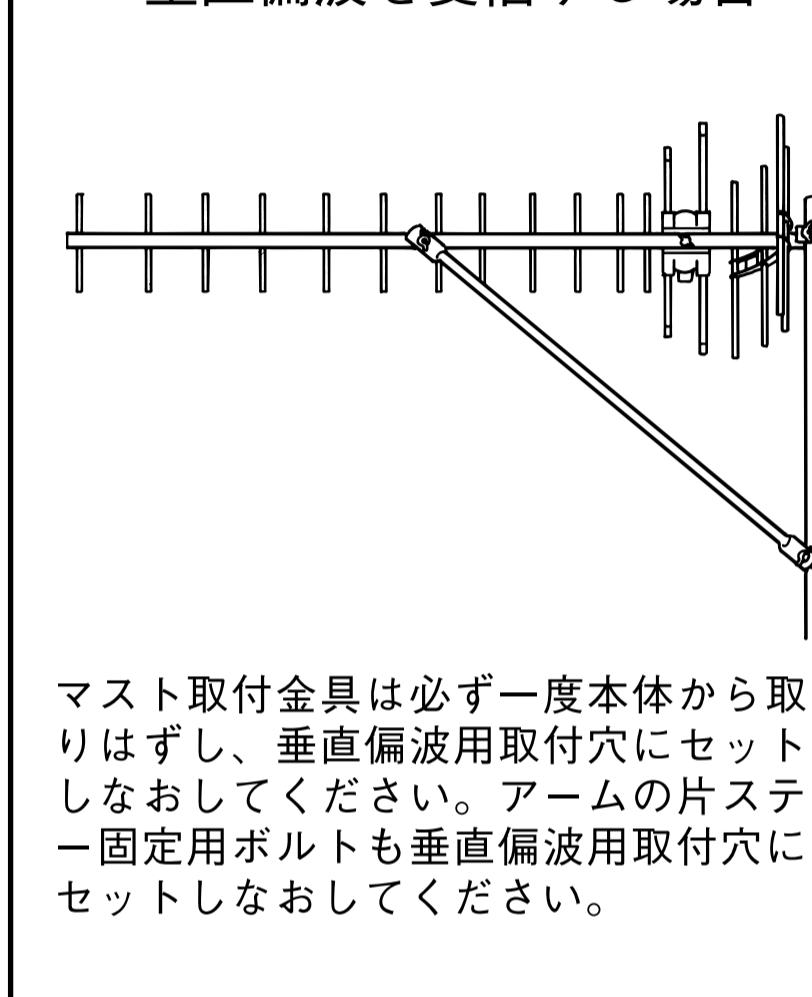
## ●組立完成図



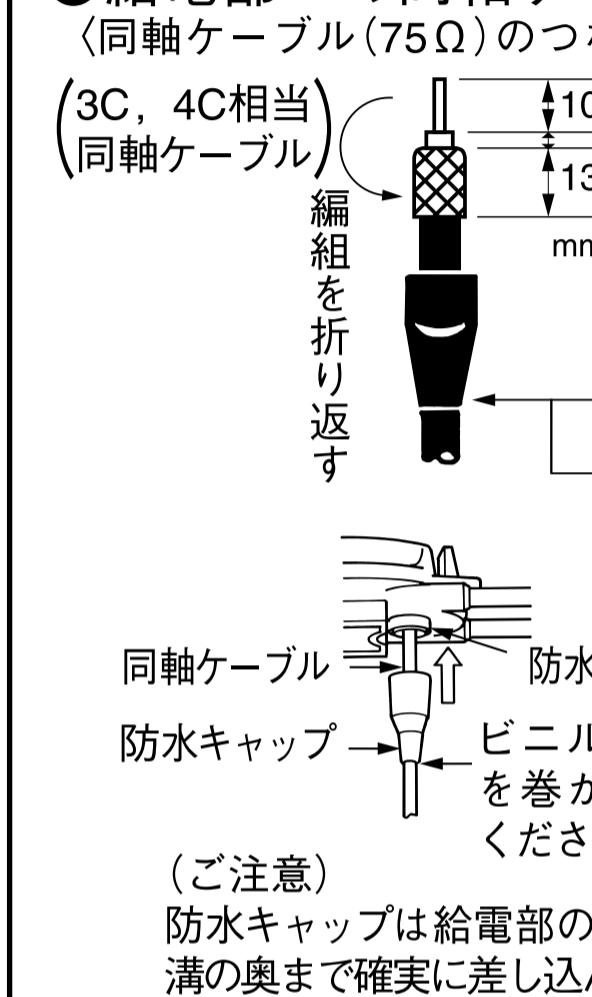
## マストへの取り付け方



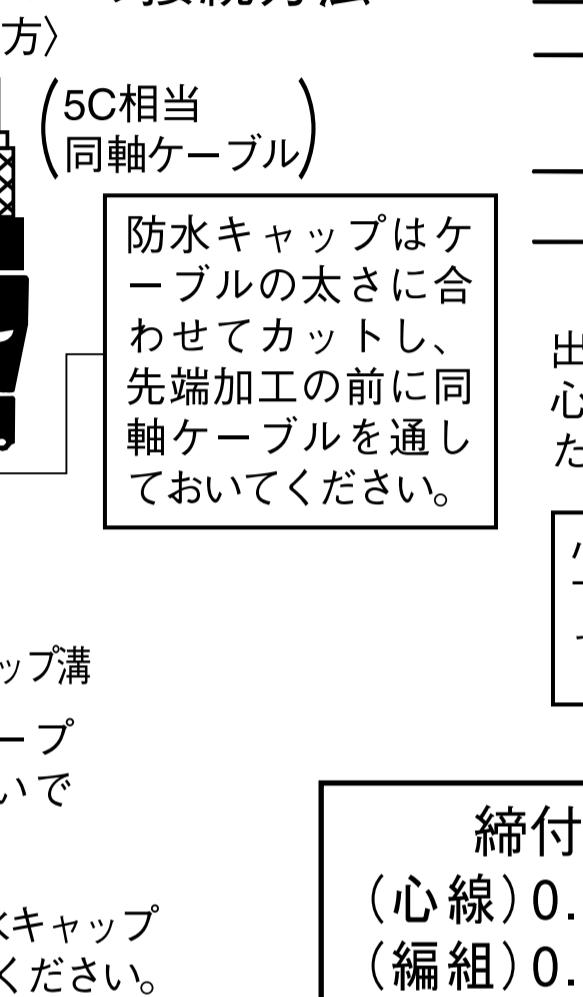
## 反射器の組み立て方



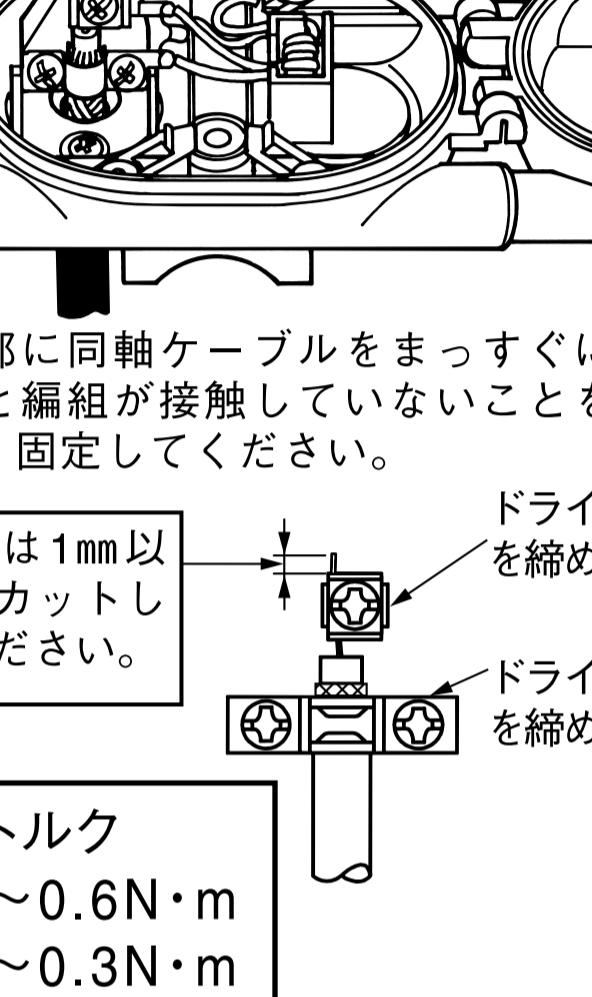
## 垂直偏波を受信する場合



## ●給電部への同軸ケーブルの接続方法



## ご注意



## ●同軸ケーブルは、心線と編組が絶対に接触しないよう注意して処理してください (Pay attention to avoid contact between the center conductor and the braid)."/>

## ●同一マストに複数のアンテナを取り付ける場合は、できるだけ間隔をあけてください (Leave a gap of 1m or more between multiple antennas on the same mast). (推奨間隔: 1m以上)

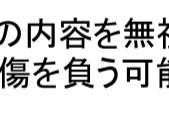
## ●給電部フタはバチンと音がするまで確実にしめてください (Tighten the feed section cap until it makes a clear click sound).

## ●同軸ケーブル取付部以外に給電部内の部品には触れないでください (Do not touch parts inside the feed section except for the connection point).

## ■規格特性

素子数	14
使用チャンネル(ch.)	13~52
インピーダンス(Ω)	75
動作利得(dB)	6.5~11.6
VSWR	2.0以下
前後比(dB)	12.0~25.0
半値幅(度)	31~57
適合マスト径(mm)	φ16~37
組立寸法(mm)	276×1106×340
質量(kg)	0.75

## 安全上のご注意



**警告** この内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

△記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるもので、図の中に具体的な注意内容(左図の場合は警告または注意)が描かれています。

○記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は接触禁止)が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は注意して行なってください)が描かれています。

●アンテナ工事およびテレビ受信関連工事には技術と経験が必要です。お買い上げの販売店もしくは工事店にご相談ください。

●アンテナや取付装置などに登ったり、乗ったりしないでください。特にお子様のいる家庭では注意してください。落ちたり、倒れたり、破損したりして、けがの原因となります。

●送配電線、ネオンサイン、電車の架線などの近くに設置しないでください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となります。また、電話線などの近くに設置しないでください。アンテナが倒れた場合、断線の原因となります。

●不安定な場所、高所など足場の悪い場所で設置工事をしないでください。落ちたり、すべったりして、けがの原因となります。

●アンテナの部品や工具類を高い所から落とさないでください。けがの原因となります。

●風の強い日や雨、雪、雷などの天候が悪い日は、危険ですから設置工事をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

●組み立てや取り付けのネジやボルトは、締め付け力(トルク)に指定がある場合はその力(トルク)で締め付け、堅固に固定してください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

●蝶ナットを一度ゆるめ反射器が確実にロックされるまで開き、固定した後に蝶ナットを確実に締め付けてください。

●ドライバーでネジを締め心線を固定する際は、心線は1mm以下にカットしてください。

●ドライバーでネジを締め編組を固定する際は、ビニルテープを巻かないでください。

●蝶ボルトなどのネジ類は、ペンチなどの工具を用いてしっかりと締め付けてください。

●同軸ケーブルは、心線と編組が絶対に接触しないよう注意して処理してください。

●同一マストに複数のアンテナを取り付ける場合は、できるだけ間隔をあけてください。

●給電部フタはバチンと音がするまで確実にしめてください。

●同軸ケーブル取付部以外に給電部内の部品には触れないでください。

●蝶ボルトなどのネ